

「家がいいね」 第130号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2015. 3. 13

少し自分を緩める時間を持ってました

1泊旅行をしました。何のおかげか呼び戻されることもなく休みを味わいました。長野と新潟の県境3mの雪の中へ片道6時間の旅、懐かしいスキーを履いたのは1時間。

怪我もなく身体感覚を思い出しました。この地へ25歳から通い、今40年が経ちます。運動音痴の私が大学再入学の際に選んだのは、なぜか競技スキー。転んで覚える初心の喜び、そして日常を離れて虚心坦懐の合宿の面白さがありました。集



合写真は今や超OBの我々4人と20代部員です。宿は昔そのままが一番の不思議です。「心の古里」の看板が、読んで泣かせるユーモアに感じました。

佐治晴夫先生 伊勢講演会

「終わりよければ」いせの会後援
5月24日(日) 15時~17時
神宮会館 大ホール 有料申込制



「宇宙に学ぶ人生の歩き方」

「これから」が「これまで」を決める

私たちは宇宙のひとつかけらとして繋がっています。そんな不思議の命なのに争いが続きます。俯瞰した見方も必要です。佐治先生が、がんの術後にもかかわらず、皆さんに親しく話される機会を作っていただきました。

みえ生と死を考える市民の会 定期講演会

6月21日(日) 13時~15時
津市 三重県総合文化センター
アルフォンス・デーケン先生



「輝いて生きるために」

ユーモアのすすめ

人には避けられない死があり、自分の人生は自分しか生きられない。しかも1回限りの人生です。ユーモアを持って、輝いて生きるに値する時間が待っています。

映画「おみおくりの作法」

伊勢進富座が、3月21日から4月23日までロングランをしてくださる嬉しいお知らせです。心をこめて孤独死した人の葬儀を行う、ロンドン市の民生係の物語。



「君は仕事に時間をかけすぎだ」と解雇を言い渡されるが、彼は仕事の流儀を貫き、人と出会い、死と向き合い、その人生が輝き出すことになる。イイ映画は掘り出さなくては観られません。映画館主の水野昌光さん、いつもありがとうございます。

- ジョン・メイ流おしごと
- 亡くなった方の写真を見つけ出す。
 - 故人の宗教を探し出す。
 - その人にあつた弔辞を書く。
 - その葬儀にふさわしいBGMを選ぶ。
 - 故人の知人を探し、葬儀に招待する。
 - 葬儀に列席する。

二見朝日館でもスペシャル上映会

3月29日(日) 14時~17時 予約制

伊勢で春をつむぐ

さとう うさぶろう

(服飾デザイナー)

船戸崇史

(在宅医・岐阜県)

Yae (歌手) の

3人が、今を織り

上げる事から未来が

はじまるドキュメンタリー映画です。

問い合わせは朝日館まで(43・2001)



☆「こころに残った言葉

「過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも盲目となります」 ヴァイツェッカー

(ドイツ連邦共和国大統領、1月31日没)
今の私達に贈られた言葉と思わなければ。



自宅での人生を 最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ http://isezaitaku.com